

論理畧說

菊池大麓編述

卷中

四二〇

137

2





菊池大麓編述

論理略說

版權免許

同盟舎



論理略說卷之中

目錄

第八編

推測式

第九編

推測式ノ樣法及形象

第十編

推測式化成

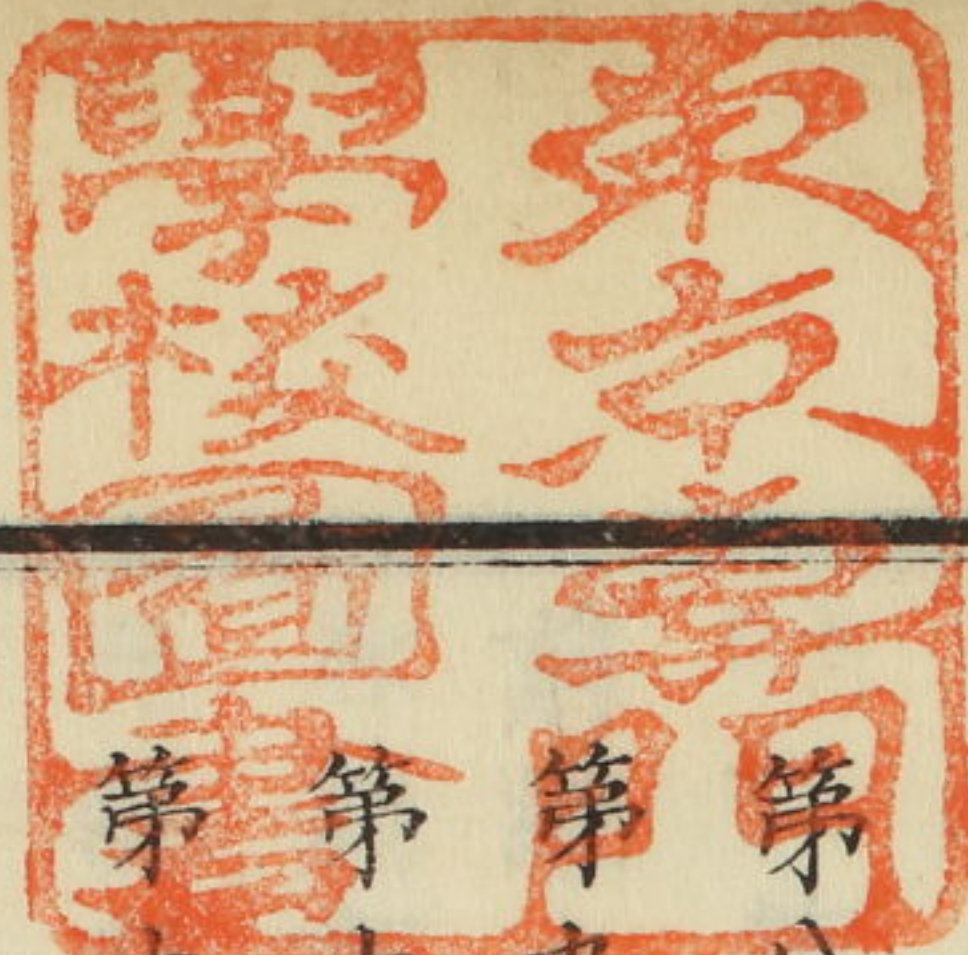
第十一編

變体推測式

第十二編

設若推測式

目錄終



成  
第三卷

論理略說  
卷之中  
目錄  
同盟舎



目録

第十二編	討論
第十一編	討論
第十編	討論
第九編	討論
第八編	討論
第七編	討論
第六編	討論
第五編	討論
第四編	討論
第三編	討論
第二編	討論
第一編	討論

論理略說卷之中

菊池大麓 編述

第八編 推測式

シロシスム

前編ニ於テハ一ノ述意ヨリ他ノ述意ヲ推断ス  
 ルノ方法ヲ説明セリ然ルニ演繹推理ハ第一編  
 ニ説明セル如ク二個ノ述意ヨリ一ノ述意ヲ断  
 定スルナリ例ヘバ

- (一) 總ての日本人ハ亞細亞人種あり
- (二) 總ての東京人ハ日本人あり
- (三) 故ニ東京人ハ亞細亞人種あり

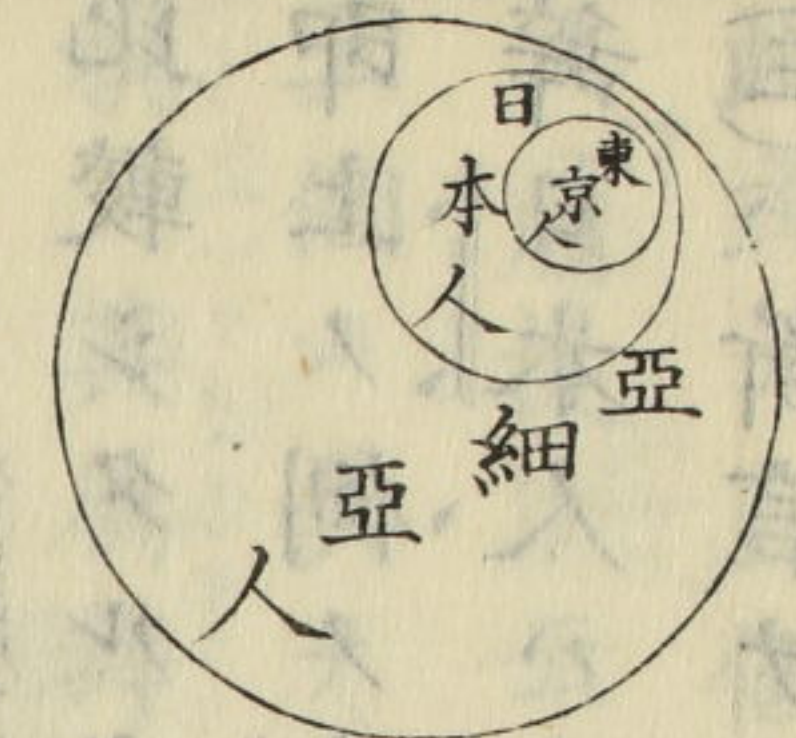


ト云フカ如シ証說ノ此体裁ヲ推測式ト稱ス  
 此式ニ三個ノ述意有リ既ニ知了セルニ述意  
 ヲ前提ト云ヒ推断シテ得ル者ヲ断言ト云フ必  
 三個ノ異ナル名辞有リ断言ノ主辞ヲ小名辞ト  
 稱シ其属辞ヲ大名辞ト云ヒ断言ニ顯ハレザル  
 名辞ヲ中名辞ト云フ蓋シ中名辞ハ大名辞ト小  
 名辞トヲ比較シテ其異同ヲ判別スル媒介上卷  
 ヲ見ト為ル者ナリ譬ヘバ二物ノ大小ヲ比較ス  
 ルニ直ニ此二物ヲ相接スル能ハザルヲ有レバ  
 獲ヲ以テ之ヲ度ルガ如ク断言ノ主辞即小名辞

ト其属辞即大名辞トヲ直ニ比較スルヲ能ハザ  
 ル時ハ即中名辞ヲ以テ恰獲ノ用ニ充テ大小名  
 辞ヲ各之ト比較シテ以テ判断スルナリ則二前  
 提ノ一ハ大名辞ト中名辞トヲ比較シタル者ニ  
 テ是ヲ大前提ト云ヒ一ハ小名辞ト中名辞トヲ  
 比較シタル者之ヲ小前提ト云フ  
 即上ノ例ノ東京人ハ小名辞亞細亞人種ハ大名  
 辞日本人ハ中名辞ナリ二ハ大前提三ハ小前提  
三ハ断言ナリ  
 大中小名辞ノ稱ノ起因ハ此圖ニテ明ナル可シ

論理學 卷之中 二 同 舍





(一) 二因リテ總テノ日本人ハ亞細亞人種ナリ故  
 ニ日本人ノ圓形ハ全ク亞細亞人種  
 ノ圓形ノ内ニ在リ(二) 二因リテ總テ  
 ハ東京人ハ日本人ナレバ其圓形ハ  
 全ク日本人ノ圓形ノ内ニ在リ是即  
 大中小名辭ノ稱有ル由縁ナリ  
 演繹推理ハ常ニ皆此体裁ニ述ヘタルニ非ラズ  
 或ハ大前提或ハ小前提ヲ明言セザルヲ有リ然  
 レ正當ノ推斷ニハ必ニ前提無カル可カラズ  
 其明言スルト否トニ拘ハラズ演者ノ意中ニハ

必之ヲ含ム者ナリ其他演繹推理ヲ述フルノ体  
 裁種々有ル可シト雖到底皆推測式ニ合ハザル  
 者ハ有ラザルナリ例ヘバ「彼ハ國ニ功有ルガ故  
 ニ賞ス可シト言フガ如シ之ヲ推測式ニ述フレ  
 バ左ノ如シ  
 總テノ國ニ功有ル者ハ賞ス可キ者ナリ  
 彼ハ國ニ功有ル者ナリ  
 故ニ彼ハ賞ス可キ者ナリ  
 故ニ演繹推理ハ皆推測式ノ体裁ニ依テ述フル  
 ヲ得然レ正此体裁ニ依テ述フル者必シモ皆正



當ノ推理ナルニ非ラズ推測式ニ正當ナル者有  
リ正當ナラザル者有リ是ヲ以テ吾輩ハ善ク其  
各般ノ推測ヲ監査シテ其果シテ正當ノ推測式  
ナルヤ否ヤヲ判セザル可カラズ而シテ之ヲ監  
査スルニ二ノ定綱即公理有リ

第一綱 二名辞共ニ第三名辞ト同シキ者ハ  
亦相同シキナリ

第二綱 二名辞ノ其一ハ第三名辞ト同シクシ  
テ其一相異ナル者ハ亦相異ナルナリ

二名辞トハ大小名辞ニシテ第三名辞ハ中名辞

ナリ

此二綱ハ思考ノ定則ニ基キタル者ニシテ其真  
確ナルコトハ証説ヲ待タズシテ明ナリ故ニ之ヲ

公理ト云フ

第一綱ノ意ハ直ニ上ノ例ヲ取りテ之ヲ明ス可  
シ(一)ニ由リテ總ての日本人(丙)亞細亞人ノ一部  
分(甲)ト同シキコトヲ示シ(二)ニ由リテ總ての東京  
人(乙)ハ日本人ノ一部分(丙)ト同シキヲ示ス因テ  
以テ又總ての東京人(乙)ト亞細亞人ノ一部分(甲)  
ト相同シキヲ知ル可キナリ



第二網ノ意ハ左ノ例ニテ明ナル可シ

(一) 總ての遊星ハ自ら光を放たず

(二) 金星ハ遊星あり

(三) 故ニ金星ハ自ら光を放たず

(四) 由リテ總ての遊星(丙)ト自ら光を放つ者(乙)

ト同シカラザルヲ知リ(二)ニ由リテ金星(甲)ト一

遊星ト相同シキヲ知ル故ニ金星(甲)ト自ら光

を放つ者(乙)ト同シカラザルコトヲ知ルナリ

此二網ハ推測式ノ原理ト稱ス可キ者ナレト現

ニ其正當ナルヤ否ヤヲ判スルニ當リテ更ニ左

ノ規則ニ據リテスレバ大ニ便宜有リ此規則ハ

右ノ二網ニ基ツキテ唯稍細蜜ニ之ヲ述ヘタル

ノミ

第一則 一ノ推測式中ニハ必三個ノ名辞有リ

テ三個ヨリ多カル可カラズ亦少カル可カラ

ズ

推断ハ中名辞ヲ媒シテ大小名辞ヲ比較スル

者ナリ故ニ大中小ノ三名辞有ルノミ

第二則 一ノ推測式ハ三個ノ述意ヨリ成ル三

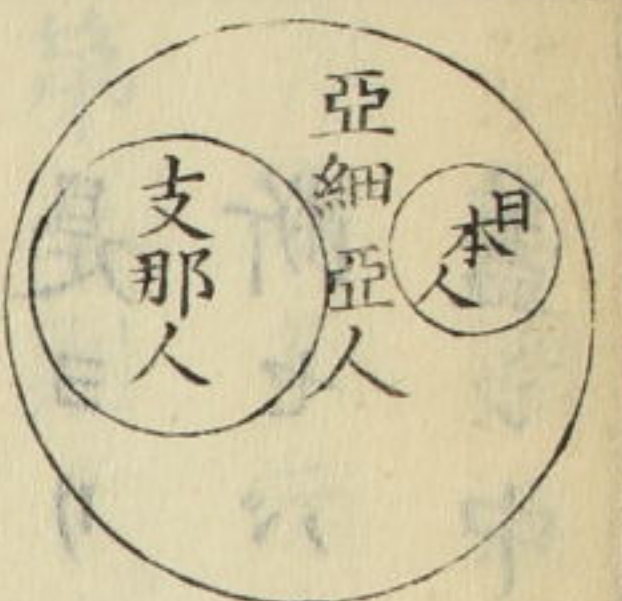
個ヨリ多カル可カラズ亦少カル可カラズ



三個述意トハ即大小前提及断言ナリ此三個  
 有リテ一推断ヲ成スナリ  
 第三則 中名辞ハ大小前提ノ兩者中少クモ其  
 一個ニ周逮セザル可カラズ  
 此定則ハ極テ重要ニシテ其理由ハ少シク考  
 フレバ自カテ明ナル可シ今若シ両前提共ニ  
 中名辞ヲ周逮セズシテ其逮ホス所唯其部局  
 ニ止マル者ナレバ大前提ニ於テ指ス所ノ中  
 名辞ノ部局ト小前提ニ於テ指ス所ノ部局ト  
 同ジキヤ將タ異ナレルヤ更ニ判シ難シ即大

名辞ニ比較シタル中名辞ノ部局ト小名辞ニ  
 比較シタル部局ト全ク異ナレルヤ知リ難カ  
 ル可シ然ル如キハ復タ大名辞ト小名辞トヲ  
 比較スルニ由無キナリ例ヘバ左ノ二前提有  
 リ  
 (一) 總ての日本人ハ亞細亞人あり  
 (二) 總ての支那人ハ亞細亞人あり  
 是ヨリ推シテ總ての支那人ハ日本人ありト  
 断セバ誰レカ其不當ナルヲ咎メザラン是  
 蓋シ中名辞ノ亞細亞人ハ両前提ニ於テ周逮





セズシテ日本人ハ亞細亞人ノ一部局  
 タリ支那人ハ又日本人ニ異ナレル  
 部局ナレバナリ但シ此ニ前提ニ依レ  
 バ其異ナルト異ナラザルトヲ判スルヲ能ハ  
 ズ今  
 (一) 總ての日本人ハ亞細亞人あり  
 (二) 總ての東京人ハ亞細亞人あり  
 ト云ヘルニ前提ヨリシテ總ての東京人ハ日  
 本人ありト推断スルモ亦是正當ノ推断ニ非  
 ズ何トナレバ吾輩ハ此断言ノ真ナルヲ知ル

モ決シテ此前提ヨリ引証シ来ル能ハザル者  
 ナレバナリ則亦大前提ノ亞細亞人ト小前提  
 ノ亞細亞人ト同一ナルヤヲ知ルニ由無シ尚  
 左ニ犯則ノ一例ヲ掲ク  
 (一) 總て道德ニ戻らざる事ハ法律ニ於て咎  
 めざる所あり  
 (二) 遊興ニ耽くるハ法律ニ於て咎めざる所  
 あり  
 (三) 故ニ遊興ニ耽くるハ道德ニ戻らず  
 第四則 前提ニテ周逮セザル名辞ハ断言ニテ



モ亦周逮ス可カラズ

大名辞或ハ小名辞ノ指ス所ノ全体ニ就テ前提ニ之ヲ述フル事無ケレバ其全体ニ就テ推断ヲ為ス能ハザルハ勿論ナリ例ヘバ

(一) 總ての支那人ハ耐忍の氣象ニ富めり

(二) 總ての支那人ハ亞細亞人ナリ

(三) 故ニ總ての亞細亞人ハ耐忍の氣象ニ富

めり

ト云ハゞ是犯則ナリ小名辞ノ亞細亞人ハ小前提ニ於テハ阿述意ノ属辞ナルヲ以テ周逮

セラレズ然ルニ断言ニ於テハ阿述意ノ主辞

ナルヲ以テ周逮セラル今圖ヲ按スルニ支那

人ノ圓形ハ(一)ニ由リテ耐忍の氣象

ニ富めり人ノ圓形ノ内ニ在リ又(二)

ニ由リテ亞細亞人ノ圓形ノ内ニ在

亞細亞人

リ然レ氏亞細亞人ノ圓形ハ全ク耐

忍の氣象ニ富めり人ノ圓形内ニ在

ルヤ否ヤハ知ル可カラザルナリ推断シ得可

キ正當ノ断言ハ(三)故ニ或る亞細亞人ハ耐忍の氣象ニ富め

耐忍の  
氣象ニ富

支那人





大名辭ヲ前提ニ周逮セズシテ断言ニ周逮スルハ一例ハ左ノ如シ

(一) 洋學ハ有用かる學カリ

(二) 漢學ハ洋學ニ非らず

(三) 故ニ漢學ハ有用かる學ニ非らず

此式ニ於テ有用かる學ハ断言ニ於テハ(江)述意ノ属辭ナレバ周逮セラレ而シテ大前提(一)ニ於テハ周逮セラレス故ニ此式ハ第四則ヲ犯スヲ以テ不正ナル者トス

更ニ犯則ハ一例ヲ左ニ掲

(一) 能く數多の學科ニ秀づる者ハ極て賞賛

ス可シ

(二) 學生の大概ハ能く數多の學科ニ秀づる者ハ

者ニあらず

(三) 故ニ學生の大概ハ極めて賞賛ス可き者

ナラズ

第五則 兩前提共ニ否定ナレハ敢テ推断ヲ行

フ可能ハズ

大前提否定ナル片ハ大名辭ト中名辭トノ相



異ナルヲ示ス小前提否定ナル片ハ小名辞  
ト中名辞トノ相異ナルヲ示ス然レ氏之二  
因リテ大名辞ト小名辞トノ異同何如ハ更ニ  
判シ得可カラザルヲ明ナリ例ヘバ

(二) 日本人ハ歐洲人ニあらず賞賛セテ  
(三) 支那人ハ歐洲人ニあらず

ト云ヘルニ前提有ルモ吾輩ハ之ニ由リテ以  
テ日本人ハ支那人ナルヤ否ヤヲ判スルヲ能

(ハ) ザルナリ

第六則 一前提否定ナレバ断言ハ必否定ナル

可シ一前提否定ナラザレバ否定断言ヲ得ル

上ニ説述セル推測式第二網ニ據リテ甲ト丙

ト同シクシテ乙ト丙ト同シカラザル片ハ(否

定)唯能ク甲ト乙トノ同シカラザルヲ証シ得

ルノミ又第一網ニ據リテ両前提共ニ肯定ナ

レバ断言ハ肯定ナラザルヲ得ズ故ニ否定断  
言ヲ得ルニハ必一前提ノ否定ナルヲ要ス圓  
形圖ヲ以テ容易ニ証明シ得可シ  
此外ニ更ニ二小則有リ上ノ六則ヨリ推究シ得



可キ者ナリ今之ヲ左ニ掲ク六限ニ於テ其  
第七則 二前提共ニ局稱述意ナル片ハ推断ヲ  
行フコト能ハズ必一前提ハ否定ナルモノ  
第八則 一ノ前提局稱ナル片ハ断言モ亦必局  
稱ナル可シ一前提ハ肯定ナル片ハ断言モ亦必局  
推測式ノ規則ハ極テ緊要ナル者ナリ學者必常  
ニ之ヲ記臆シテ其証說ニ遇フ片ハ果シテ能ク  
規則ニ戻ラザル正當ノ推測式ナルヤ否ヤヲ判  
スルコトヲ練習スルヲ要ス可シ此規則ヲ犯セバ  
必推理ノ誤謬ニ陥ル慎マザル可ケンヤ後編誤

謬ノ條ニ至リ犯則ノ例ヲ掲ケテ之ヲ詳ニス可  
シ同大前提ハ正當ノ推測式ナルヤ否ヤヲ判  
推測式ハ大前提ヲ小前提ノ先ニ舉グルヲ常ト  
ス同大前提ハ正當ノ推測式ナルヤ否ヤヲ判  
第九編 推測式ノ樣法及形象  
吾輩ハ前編ニ説明シタル定則ニ照シテ以テ推  
測式ノ正當ナル者ト否ラザル者トヲ辨識スル  
ヲ得今本編ニ於テハ真正推測式ノ諸樣法及形  
象ヲ論ゼントスルニ其旨大ニ在リ  
各樣推測式ハ皆大前提、小前提、及断言ノ三述意







言ハ否定ナルヲ以テ大名辞ヲ周逮ス然ルニ其  
大前提ハ以ナルヲ以テ大名辞ハ其主辞タルモ  
属辞タルモ共ニ周逮セラル、一無シ故ニ此様  
法ハ第四則ヲ犯ス者トス斯ク犯則ノ様法ヲ皆  
除キ去レバ正當ノ推測式タル様法ハ僅三十一  
ヲ存スルノミ即左ノ如シ  
阿阿阿六阿阿以於阿江江阿江於阿以以  
六阿於於阿阿阿六阿阿以於阿江江阿江於阿以以  
以阿以於阿阿阿六阿阿以於阿江江阿江於阿以以

大於阿於  
以上正當様法  
又犯則ノ者ヲ舉クレバ  
第五則ヲ犯ス者  
第七則ヲ犯ス者  
第六則上段ヲ犯ス者  
第八則ヲ犯ス者  
第六則下段ヲ犯ス者  
以上犯則様法  
五十三



合計

六十四

吾輩ハ未推測式ノ變化ヲ盡サズ之ヲ成ス述意ノ質及量ニ因リテ其様法ヲ定メタルモ未各般述意中ノ名辞ノ排置ヲ論セス抑大名辞ハ断言ニ於テハ必属辞ナルモ大前提ニ於テハ主辞或ハ属辞ナル可シ又小名辞ハ必断言ノ主辞ナレバ小前提ノ主辞或ハ属辞ナル可シ故ニ名辞ノ排置法ニ四様有リ是ヲ推測式ノ形象ト稱ス四形象ノ名辞ノ排置左ノ如シ

第一形象 第二形象 第三形象 第四形象

大前提	中大	大中	中大	大中
小前提	小中	小中	中小	中小
断言	小大	小大	小大	小大

此四形象ハ須ラク心ニ記臆セザル可カラズ務メテ中名辞ノ位置ニ注意スレバ最記臆ニ便宜有リ

十一様法、四形象ヲ以テ四十四様ノ異式ヲ得ルナリ吾輩其中ニ就キテ正當推測式ヲ為ス者ヲ撰擇セザル可カラズ

以下大名辞ヲ表スルニ甲ヲ以テシ中名辞ハ乙



小名辞ハ丙トスルニ甲ハ以テ中ニ於テハ如  
例ヘバ阿江江ノ様法ハ第一形象ニ於テ左ノ如

シテ其章其中ニ於テハ五當非阿江ノ為ニ去リ  
一切の乙ハ甲ナリ  
一切の丙も乙ならむ

(故ニ)一の丙も甲ならむ  
此式ニ於テ甲ハ断言ニテ周逮シ前提ニ於テ周  
逮セズ故ニ第四則ヲ犯ス又同様法第二形象ニ  
於テハ  
一切の甲ハ乙ナリ

補言の丙も乙ならむ第一形象ニ於テ阿江江ノ  
夫(故ニ)一の丙も甲ならむ  
ト為ル是正當推測式ナリ第三形象ニ於テハ第  
四則ヲ犯シ第四形象ニ於テハ正當ナリ  
斯ノ如ク犯則様法ヲ除キ去レバ正當推測式ヲ  
為ス者二十四ヲ得

正當推測式ヲ為ス様法

- 第一形象 第二形象 第三形象 第四形象
- 阿阿阿 江阿江 阿阿以 阿阿以
- 江阿江 阿江江 以阿以 阿江江



阿以以 江以於 阿以以 以阿以  
江以於 阿於於 江阿於 江阿於

於阿於 江以於

(阿阿以) (江阿於) 江以於

(江阿於) (阿江於) (阿江於)

右表中括弧内ニ在ル五様法ハ其効用無キ者ト  
ス是レ蓋シ普稱ノ断言ヲ得可キ場合ニ於テ局  
稱断言ヲ得ル者ニシテ固ヨリ不當ニ非スト雖  
夫レ己ニ普稱断言ヲ得可ケレバ何ゾ別ニ局稱  
断言ヲ要セン例ヘバ第一形象ニ於テ阿阿ノ前

提

一切の實物ハ引力を施す

一切の金類ハ實物なり

ト有レバ断言阿

一切の金類ハ引力を施す

ヲ得可シ則断言以

或る金類ハ引力を施す

ハ勿論ナリ故ニ己ニ阿断言ヲ得レバ以断言ハ

更ニ効用無キナリ

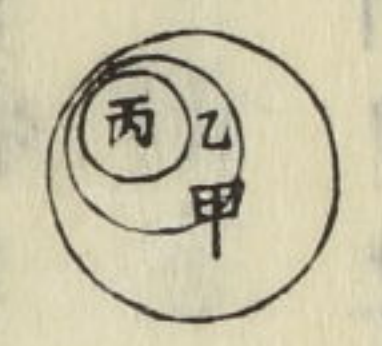
斯ク終ニ正當ニシテ且有効ナル推測式ヲ為ス



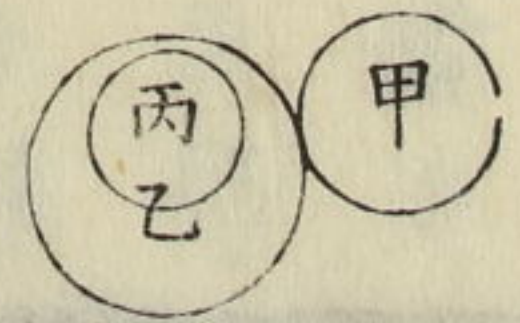
者十九ヲ得左ニ掲クル所ノ如シ其第一段ハ三述意ノ種類第二段ハ各般様法ノ名第十編ヲ見ヨ第三段ハ其圖解ナリ左ノ圖解中丙ノ黒部ニ至リテハ其甲トノ關係何如ヲ前提ニ因リテ以テ推知スルヲ能ハザル者ナリ

○第一形象

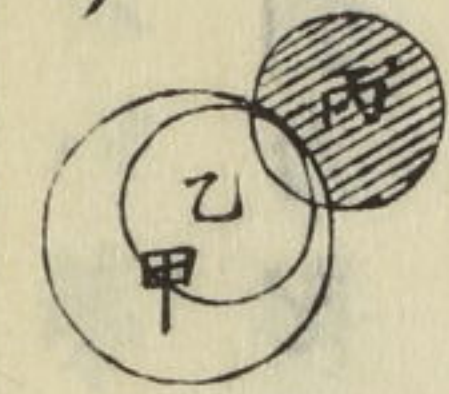
阿<sup>ル</sup>バ<sup>ル</sup> 一切の乙ハ甲あり  
阿<sup>ラ</sup> 一切の丙ハ乙あり  
阿<sup>ラ</sup> (故ニ) 一切の丙ハ甲あり



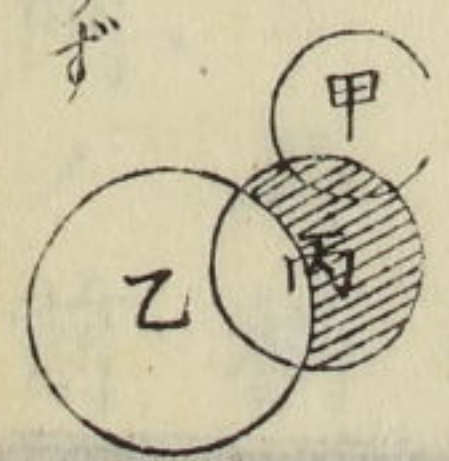
江<sup>ケ</sup> 乙ハ皆甲あらざる  
阿<sup>レ</sup> 丙ハ總て乙あり  
江<sup>ツ</sup> (故ニ) 丙ハ皆甲あらざる



阿<sup>タ</sup> 一切の乙ハ甲あり  
以<sup>イ</sup> 或る丙ハ乙あり  
以<sup>ニ</sup> (故ニ) 或る丙ハ甲あり

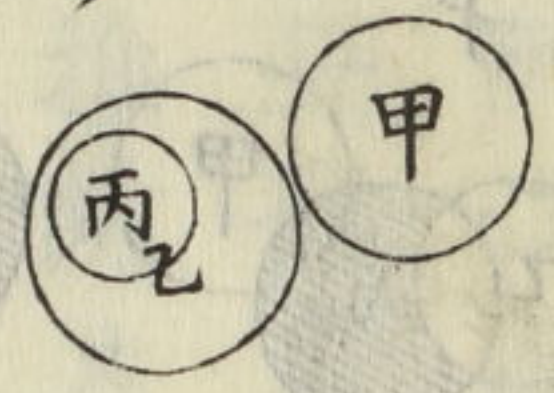


江<sup>ニ</sup> 乙ハ皆甲あらざる  
以<sup>リ</sup> 或る丙ハ乙あり  
於<sup>オ</sup> (故ニ) 或る丙ハ甲あらざる

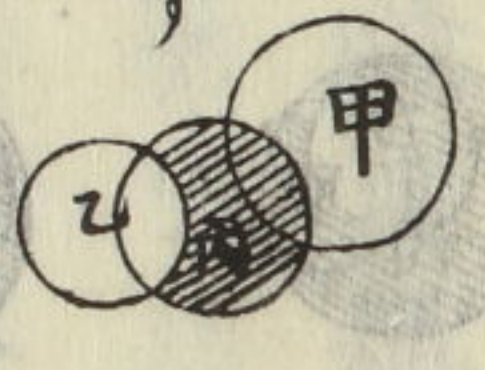


○第二形象

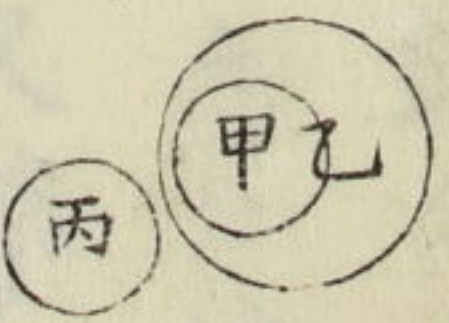
江<sup>ケ</sup> 甲ハ皆乙あらざる  
阿<sup>ガ</sup> 一切の丙ハ乙あり  
江<sup>レ</sup> (故ニ) 丙ハ皆甲あらざる



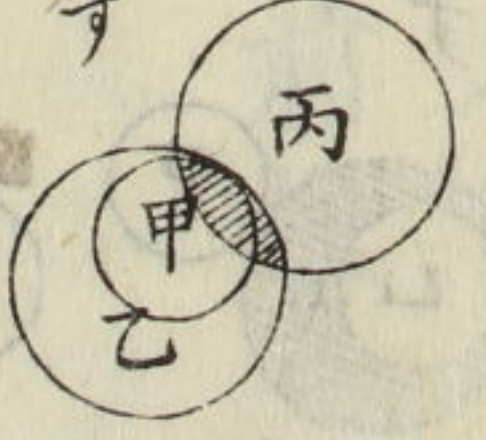
江<sup>ニ</sup> 甲ハ皆乙あらざる  
以<sup>チ</sup> 或る丙ハ乙あり  
於<sup>ニ</sup> (故ニ) 或る丙ハ甲あらざる



阿<sup>ス</sup> 一切の甲ハ乙あり  
江<sup>レ</sup> 丙ハ皆乙あらざる  
江<sup>ス</sup> (故ニ) 丙ハ皆甲あらざる

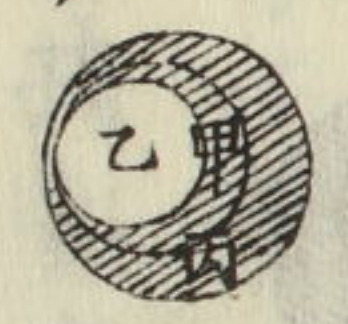


阿<sup>バ</sup> 一切の甲ハ乙あり  
於<sup>コ</sup> 或る丙ハ乙あり  
於<sup>ロ</sup> (故ニ) 或る丙ハ甲あらざる

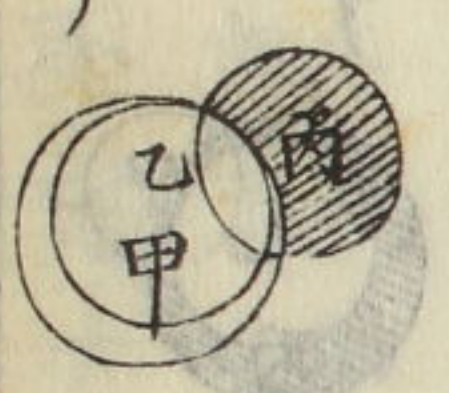


○第三形象

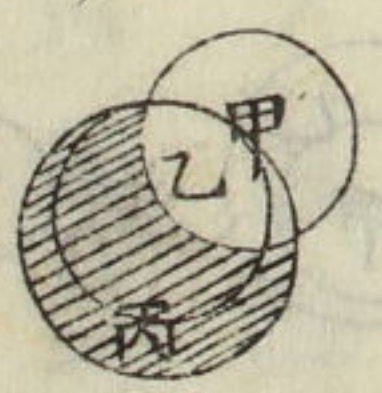
阿<sup>タ</sup> 一切の乙ハ甲あり  
阿<sup>ア</sup> 一切の乙ハ丙あり  
以<sup>チ</sup> (故ニ) 或る丙ハ甲あり



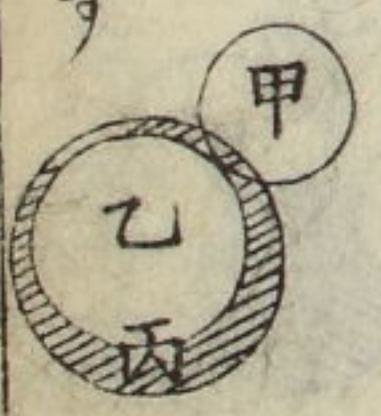
阿<sup>タ</sup> 一切の乙ハ甲あり  
以<sup>チ</sup> 或る乙ハ丙あり  
以<sup>シ</sup> (故ニ) 或る丙ハ甲あり



以<sup>チ</sup> 或る乙ハ甲あり  
阿<sup>サ</sup> 一切の乙ハ丙あり  
以<sup>シ</sup> (故ニ) 或る丙ハ甲あり



江<sup>ニ</sup> 乙ハ皆甲あらざる  
阿<sup>ラ</sup> 一切の乙ハ丙あり  
於<sup>ニ</sup> (故ニ) 或る丙ハ甲あらざる

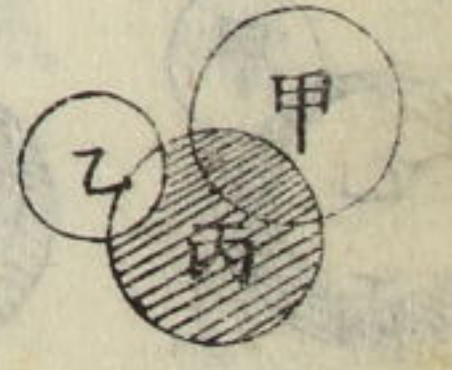




於カボ 或る乙ハ甲あらざ  
阿カ 一切の乙ハ丙あり  
於カ (故三或る丙ハ甲あらざ)



江カ 乙ハ皆甲あらざ  
以カ 或る乙ハ丙あり  
於カ (故三或る丙ハ甲あらざ)

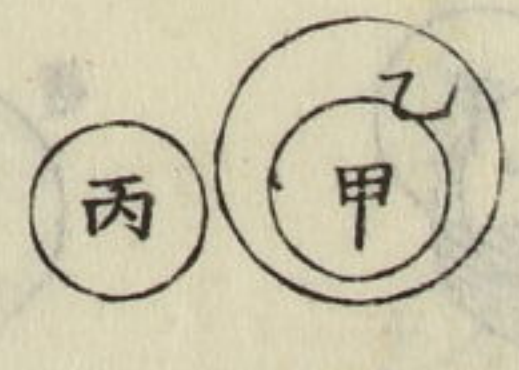


○第四形象

阿カ 一切の甲ハ乙あり  
阿カ 一切の乙ハ丙あり  
以カ (故三或る丙ハ甲あり)



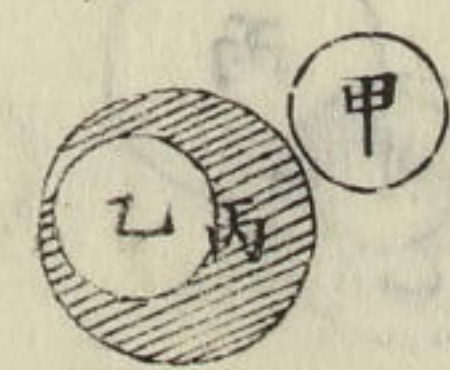
阿カ 一切の甲ハ乙あり  
江カ 乙ハ皆丙あらざ  
江カ (故三丙ハ皆甲あらざ)



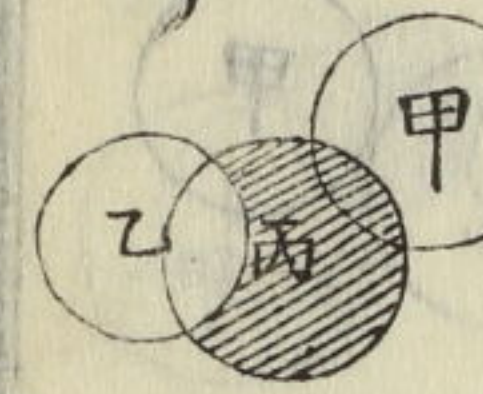
以カ 或る甲ハ乙あり  
阿カ 一切の乙ハ丙あり  
以カ (故三或る丙ハ甲あり)



江カ 甲ハ皆乙あらざ  
阿カ 一切の乙ハ丙あり  
於カ (故三或る丙ハ甲あらざ)



江カ 甲ハ皆乙あらざ  
以カ 或る乙ハ丙あり  
於カ (故三或る丙ハ甲あらざ)



右ノ表ヲ看ルニ阿江以於ノ中何ニテモ能ク之

ヲ証シ得ルハ第一形象ノミ阿述意ノ如キハ他

ノ形象ニ因リテ推断スル能ハザルナリ又第一

形象ノ大前提ハ必普稱阿或ハ江ナリ小前提ハ

必肯定(阿或ハ以)ナリ

第二形象ノ断言ハ皆否定ナリ今其然ル由縁ヲ

考フルニ此形象ニ於テ中名辞ハ両前提ノ属辞

ナリ故ニ両前提共ニ肯定ナレバ中名辞ハ両前

提共ニ周逮セズ

然レバ一前提ハ否定ナラザルヲ得ズ故ニ断言



モ亦否定ナリ第六則小前提ハ阿江以於ノ何ニ  
テモ有ル可シ  
第三形象ノ断言ハ皆局稱ナリ小前提ハ必肯定  
ナリ  
第四形象ハ推断ヲ述ズルヲ甚拙ク且穩當ナラ  
ザル者ナリ之ヲ第一形象ニ述ブルクハ甚妥當  
ニシテ明了ナリ論理學ノ諸大家中ニハ全ク此  
形象ヲ省キタル者少カラズ  
四形象各固有ノ性有リテ各特殊ノ用ニ適ス一  
論理學者ノ言ニ曰ク第一形象ハ事物ノ性質ヲ

發見シ或ハ之ヲ證スルニ適シ第二ハ事物ノ差  
別ヲ發見シ或ハ之ヲ證スルニ適シ第三ハ適例  
或ハ犯則ヲ發見シ或ハ之ヲ證スルニ宜シ第四  
ハ一類中諸種ヲ區別スルニ宜シト  
ケザレ及カメスツレトス第二形象第一ハ往々  
之ヲ反對論ヲ擊破スルニ用ユ例ヘバ或人若シ  
光ハ實質物ナリト言ハバ之ヲ駁スルニ左ノ推  
測式ヲ以テスベシ  
一切の實質物ハ重み有り  
光ハ重みかし



(故二)光ハ實質物ニ非ズ

「バロコ」及「フェスチ」第二形象第三モ亦駁撃

ニ用ヰル可シ事物ノ差別ヲ發見スルニ用ヰル

ノ一例ヲ舉タレバ此ニ一患者有リ其何病タル

ヲ断定スルニ熱病ニハ云々ノ徵証有リ今其徵

証無シ故ニ此患者ノ病ハ熱病ニ非ズ(カメスツレ

ス)若シ又胃病ナレバ云々ノ様体有ル可カラザ

ルニ此患者ハ是有リ故ニ此病ハ胃病ニ非ズ(ケ

ザレ)ト因テ此患者ノ病ノ諸病ト異ナルヲ証シ

以テ遂ニ其真ニ何病タルヲ發見スルガ如シ

第三形象モ亦駁撃ニ用ヰル可シ則此ニ一説ヲ

持張スル者有リ我之ヲ駁破セント欲セバ須ラ

ク彼ノ説ニ反戾セル一例ヲ舉ク可シ例ヘバ「一

切の金属ハ固質物ナリ」ト主張セバ之ヲ破ルニ

左ノ推測式(「テラプト」ヲ以テス可シ又上卷第三

ヲ比考ス可シ

水銀ハ固質物ニ非ズ

水銀ハ金属ナリ

(故三)或る金属ハ固質物ニ非ズ

第十編 推測式化成



アリストートルハ第一形象ヲ以テ殊ニ正當明  
確ナル推測式トシテ之ヲ完全形象ト名ツケタ  
リ第四形象ハ氏ノ認メザル所ナリ又第二第三  
形象ハ皆先ツ之ヲ第一形象ニ修為シテ而後始  
メテ其正當ナルヤ否ヲ監查ス可キ者トシテ不  
完全形象ト名ツケタリ蓋シアリストートルハ  
推測式ノ正否ヲ判スルハ左ノ定綱ニ據ル者ナ  
リトセリ

一類ニ就テ有無ヲ言フ可キ者ハ其類中ノ一  
切ニ就テ同シク有無ヲ言フ可シ

語ヲ更ヘテ言ヘバ

類ニ属スル事ハ必種ニ属ス

是有名ナル皆有全無ノ辨ト稱スル者ニシテ蓋  
シ一般類ニ某ノ性質有レバ其類中ノ各物ハ皆  
此質ヲ有ス一般類ニ某ノ性質無ケレバ其類中  
ノ各物亦皆此質無シト謂フノ意ナリ今直ニ此  
定綱ニ照シテ其正否ヲ判ス可キ者ハ第一形象  
ノ推測式ニ限レリ故ニ他ノ形象ハ先ツ修為シ  
テ第一形象トシ而シテ此定綱ニ照シ以テ始メ  
テ其正否ヲ判スルヲ得ルナリ斯ク第一形象ニ



修為スルヲ推測式化成ト云フ  
 吾輩ハ既ニ第八編ニ於テ八個ノ定則ヲ説キテ  
 以テ推測式ノ正否ヲ監査ス可キヲ示シタレバ  
 更ニ化成法ヲ行フヲ要セズト雖此法ヲ知ル  
 又益無キニ非ズ故ニ其方法ヲ説ク可シ  
 此方法ヲ記スルニ便センガ為ニ中古時代ニ七  
 ノ詩ヲ作りタリ

*Barbara, Belarent, Bavi, Feno que prioris;*  
*Beaure, Barmestres, Festino, Barotto secundae;*  
*Tertia Baraphiti, Bisamis, Batisi, Telaphton,*

*Botardo, Ferrison habet; Quarta in super adalite*  
*Gramantifu, Barmenes, Dimavis, Teoapho,*  
*Fressison.*

余ハ假ニ之ヲ左ノ四首ノ歌ニ譯シタリ  
 バルバラ<sup>レ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ケ<sup>レ</sup>ラ<sup>レ</sup>レンツ<sup>ツ</sup>又<sup>タ</sup>リ<sup>イ</sup>ト<sup>ト</sup>  
 五<sup>リ</sup>オ<sup>オ</sup>を<sup>加</sup>て<sup>是</sup>ぞ<sup>第</sup>一<sup>ノ</sup>  
 ケ<sup>ザ</sup>レ<sup>レ</sup>も<sup>カ</sup>メ<sup>ス</sup>ツ<sup>レ</sup>ス<sup>フ</sup>エ<sup>ス</sup>チ<sup>ノ</sup>バ<sup>ノ</sup>  
 バ<sup>ロ</sup>コ<sup>コ</sup>を<sup>添</sup>へ<sup>て</sup>第<sup>二</sup>を<sup>り</sup>け<sup>り</sup>  
 タ<sup>ラ</sup>プ<sup>チ</sup>チ<sup>チ</sup>サ<sup>シ</sup>ス<sup>タ</sup>チ<sup>シ</sup>五<sup>ラ</sup>プ<sup>ト</sup>ン<sup>ン</sup>  
 ボ<sup>カ</sup>ル<sup>ド</sup>の<sup>外</sup>フ<sup>エ</sup>リ<sup>ト</sup>ソ<sup>ン</sup>の<sup>ミ</sup>



諸邦田言 卷之四 同 盟 舍

第四ヨハ「ブラマンチック」カメ子「リス」  
「チ」マ「リス」フ「エ」サ「ポ」フ「レ」シ「ゾ」シ「あり」  
此レ唯洋語ヲ解セザル者ノ為ニ假ニ譯シタル  
者ナレバ固ヨリ歌ノ拙キヲ顧ミルニ遑アラズ  
今此歌ヲ以テ化成ノ方法ヲ知ルヲ示サン  
右ノ「印」ノ中ニ在ル者ハ前編ニ説明シタル十  
九ノ正當推測式ノ名ニシテ第一首ノ歌ハ第一  
形象ノ推測式ヲ掲ゲ第二首ハ第二形象第三首  
ハ第三形象第四首ハ第四形象ノ推測式ヲ列本  
タル者ナリ名中阿江以於ノ音ハ其推測式中述

意ノ質量ヲ表ス例ヘバ「バル」バ「ラ」ハ「阿阿」ノ三  
述意ヨリ成リ「フレ」シ「ゾ」シハ江以於ノ三述意ヨ  
リ成ル等ノ如シ  
第二三四形象推測式ノ名頭ノ字ハ第一形象ノ  
何レノ推測式ニ化成ス可キヤヲ示ス即名頭ノ  
「バ」ズ「ボ」ハ「バル」バ「ラ」ニ「カ」或ハ「ケ」ハ「ケ」ラ「レン」ツ「ニ」  
「ク」チハ「ダ」リ「イ」ニ「フ」フ「エ」ハ「フ」エ「リ」オニ化成ス可キ  
者タリ  
名中サ「シ」ス「ソ」ノ音ハ其上ニ有ル述意ヲ單純ニ  
轉換ス可キヲ示ス

論理略説 卷之四 二十三 同 盟 舍



ブ、ホハ其上ニ在ル述意ニ減界轉換法ヲ行フヲ  
示スヤハ其土ニ在ル述意ニ減界轉換法ヲ行フヲ  
名中マ、或ハメ有ル推測式ハ大前提ト小前提  
ヲ交換ス可シ  
名頭ノ外カゴ有ル推測式ハ間接化成法ト稱ス  
ル特殊ノ化成法ヲ行フ可シ  
今化成ノ兩三例ヲ掲ク  
カメスツレトスノ一推測式ヲ取ラン

- (一) 一切の東京人ハ日本人ナリ
- (二) 一人の支那人モ日本人ニ非ズ

(三) 故ニ一人の支那人モ東京人ニ非ズ

名頭ニカ有ルハ化成シテ「ケザレト成ルヲ示ス  
カメス」ノスハ(二)ヲ單純ニ轉換ス可キヲ示ス  
ハ大前提ト小前提ヲ交換ス可キヲ示ス語尾ノ  
スハ断言ヲ單純ニ轉換ス可キヲ示ス斯ノ如ク  
スレバ左ノ推測式ヲ得

- 一人の日本人モ支那人ニ非ズ
- 一切の東京人ハ日本人ナリ
- (故ニ) 一人の東京人モ支那人ニ非ズ

是即推測式「ケザレ」ナリ而シテ其断言ヲ單純ニ



轉換スレバ元ノ断言ヲ得可シ  
 又「フェラプ」トシテ一例ヲ示セバ入ル非也  
 (一)水銀ハ固質物ニ非也  
 (二)水銀ハ金属あり  
 (三)故ニ或る金属ハ固質物ニ非也  
 名頭ノ「フェリオ」ニ化成スルヲ示ス  
 前ニ在ル前提即(三)ニ減界轉換法ヲ行フヲ示ス  
 故ニ左ノ如シ  
 水銀ハ固質物ニ非也  
 或る金属ハ水銀あり

(故)ニ或る金属ハ固質物ニ非也  
 是即「フェリオ」ナリ  
 又「フェサポ」ノ例ヲ示セバ  
 (一)自くら光を放つものハ遊星ニ非也  
 (二)一切の遊星ハ球体あり  
 (三)故ニ或る球体ハ自くら光を放つものニ非也  
 サノ前ニ在ル述意即(三)ヲ單純ニ轉換シポノ前  
 ニ在ル述意即(二)ニ減界轉換法ヲ行ヘバ左ノ如  
 ク「フェリオ」ノ推測式ヲ得



一の遊星も自りら光を放とむ

或る球体ハ遊星あり

(故ニ)或る球体ハ自りら光を放とむ

他ノ諸様法モ皆其名称中文字ノ指示ニ從テ容

易ニ化成ス可シ但「ブラマンチップ」バロコ「ボカル

ド」ノ三者ハ特別ニ検査セザル可カラズ

「ブラマンチップ」ノ一例ハ左ノ如シ

(一)一切の金属ハ實質物あり

(二)一切の實質物ハ引力を施す

(三)故ニ)或る引力を施すものハ金属あり

名中マ有レバ大小前提ヲ交換シ(三)ヲ單純ニ轉換スレバ

一切の實質物ハ引力を施す

一切の金属ハ實質物あり

(故ニ)或る金属ハ引力を施す

トナル可シ此推測式ハ「バルバラ」ニ非ズ阿阿以

ナリ即前ニ第一形象ニ於テハ無効ナリトシテ

除キ去リタル者ナリニ前提ヨリシテ正ニ阿断

言

(故ニ)一切の金属ハ引力を施す



ヲ得可シ「總テ第四形象ハ上ニモ云ヘル如ク甚拙クシテ自然ノ順序ニ及キタル推測式ナリ右ノ「<sup>レ</sup>エサポー」及「<sup>レ</sup>ブラマンチ」ノ二例ニテ之ヲ知ルニ足ル故ニ或ル論理學家ノ説ニ從テ之ヲ廢棄スル「可ナルニ似タリ」ハ直ニ第一形象ニ化成ス可「<sup>レ</sup>バロコ」及「<sup>レ</sup>ボカルド」ハ直ニ第一形象ニ化成ス可カラズ左ニ其方法ヲ示ス可シ

「<sup>レ</sup>バロコ」ノ推測式ハ左ノ如シ

(一)一切の甲ハ乙カ  
 (二)一切の甲ハ乙カ  
 (三)或る丙ハ乙カラズ

(三)故ニ或る丙ハ甲カラズ  
 大前提ニ否定轉換法ヲ行ヘバ左ノ如ク「<sup>レ</sup>エリオ」ノ推測式ヲ得可シ

「<sup>レ</sup>エリオ」一切の「<sup>レ</sup>乙」カラズもの「<sup>レ</sup>ハ」甲カラズ  
 或る丙ハ「<sup>レ</sup>乙」カラズもの「<sup>レ</sup>あり」

(故ニ)或る丙ハ甲カラズ  
 又「<sup>レ</sup>ボカルド」ハ左ノ如シ

(一)或る乙ハ甲カラズ  
 (二)一切の乙ハ丙カ  
 (三)故ニ或る丙ハ甲カラズ



今大前提ヲ否定轉換シテ小前提トセバ

(一)一切の乙ハ丙あり

(二)或る甲<sup>レ</sup>からざるものハ乙あり

(三)故ニ或る甲<sup>レ</sup>からざるものハ丙あり

ヲ得此断言ハ即元ノ断言ヲ單純ニ轉換シタル者ナリ

然レ氏「バロコ」及「ポカルド」ハ又間接化成法ト稱スル特殊ノ方法ヲ以テ証ス可シ此方法ハ直接ニ推測式ノ断言ノ當ナルヲ証セズシテ其否ナルヲ能ハザルヲ証スル者ナリ即左ノ例ニテ

詳ナル可シ

「バロコ」ノ推測式ハ左ノ如シ

(一)一切の甲ハ乙あり

(二)或る丙ハ乙からざる

(三)故ニ或る丙ハ甲からざる

此断言若シ否ナル片ハ其實反對ノ第五編「一切

の丙ハ甲あり」ハ當ナラザルヲ得不然レバ左ノ

如ク「バルバラ」ノ推測式ヲ得可シ

此断言一切の甲ハ乙あり

一切の丙ハ甲あり (三)ノ實反對



(故三一切の丙ハ乙あり)

此断言ハ(三)ノ實反對ナリ故ニ若シ元ノ断言否ナレバ元ノ小前提モ亦非ナリ然ルニ推断ノ用ハ凡ソ云々ノ前提ノ當ナル時ハ云々ノ断言ヲ得可シト決定スルニ在リテ前提ハ必<sup>ス</sup>當ナル者ト認ムルナリ故ニ元ノ小前提ヲ非ナリトスル能ハザレバ元ノ推断モ亦否ナル能ハザルナリボカルドモ亦之ニ同シ

(二)或る乙ハ甲からむ

(三)一切の乙ハ丙あり

(三)故三或る丙ハ甲からむ

若シ此断言當ナラザレバ其實反對ノ一切の丙ハ甲ありハ當ナリ故ニ左ノ如ク「バルバ」ノ推測式ヲ得(三)一切の丙ハ甲あり(三)ノ實反對ハ(三)一切の乙ハ甲あり(三)ハ(三)ノ實反對ハ(三)故三一切の乙ハ甲あり此断言ハ(二)ノ實反對ナリユエニ元ノ断言否ナレバ大前提モ亦否ナリ然ルニ前提ハ否ナルト能ハザル者ナリ故ニ断言モ亦否ナラズ



第十一編

變体推測式

吾輩ハ平生ノ常言ヲ述ブルニハ必シモ推測式ニ依ラズト雖凡ソ正當ノ演繹推理ハ必皆前編ニ説明シタル十九様法ノ一ナリ唯其大前提或ハ小前提ノ若キ故意ニ之ヲ提出セザルモノノ已ニ知了セルモノナルヲ以テ常ニ之ヲ省畧ス斯ノ如キ不完全推測式ヲ散体ト稱ス而シテ其大前提ヲ省畧セル者ヲ第一種ノ散体推測式ト云フ其一例ヲ舉ぐレバ「空氣も實質物おれを亦必ズ重み有りト云フ若キ其大前提ハ人ノ已ニ

了知セル所ナレバ省キテ之ヲ述ベザルナリ今若シ式ニ依テ述ブレバ左ノ如ク「バルバラ」ノ推測式ト成ル

- (一) 一切の實質物ハ重み有り
- (二) 空氣ハ實質物あり
- (三) 故ニ空氣ハ重み有り

小前提ヲ省畧シタル者ヲ第二種ノ散体推測式トス例ヘバ「一切の金屬ハ原素おれを鉄ハ原素ありト云フガ若キ其鉄ハ金屬ありト云ヘル小前提ノ有ルベキハ勿論ノ事タレバ語ノ上ニハ



省キテ之ヲ述ベザルナリ  
又時ニ因リ單ニ前提ノミヲ述ベテ断言ヲ明言  
セザルコト有リ是レ明言セザルコトノ却テ趣味有  
ルカ或ハ明言スレバ嫌忌有ルヲ以テナリ此類  
ヲ第三種ノ散体ト稱ス可シ

此他文意ニ因リテ一言一句ノ中ニ直ニ前提ヲ  
含ミタル者有リ例ヘバ「か」と「ぐ」は何ゆゑよか  
程賤しき強カよ太刀、刀を抜きこまふハ云々ト  
言ヘル若キカ「程賤しき」ノ語ニテ「抜きこまふ」ト  
不審ヲ起ス理由ヲ述ヘタル者ニテ則

賤しき者小對して太刀、刀を抜きこまふ及をさる  
あり

此強カハ甚賤しき者かり  
故ニ此強カよ向ひて太刀、刀を抜きこまふ及をさ  
るあり

是レ推測式ノ意ナリ  
或ハ犯則推測式ノ如ク見エテ實ハ犯則ニ非ザ  
ル者有リ此等ハ最宜シク注意ス可シ例ヘバ  
見義不レ為者無レ勇  
某ハ義を見て為さむ



(故ニ某ハ勇無シ)

ト云フ若キ兩前提ハ皆否定ニシテ第五則ヲ犯セル如ク見ユレドモ善ク小前ヲ視レバ「某ハ義を見て為さざる者あり」ノ意ニシテ則肯定トス故ニ是「ケラレンツナリ」又或ハ

蛇ハ蟲あり

或る人ハ蛇を神として禮拜ス

(故ニ或る人ハ蟲を神として禮拜ス)

ト云フ若キハ是レ尋常ノ推測式ニ非ズ蓋シ此

レ大前提ニ直接推斷第三法上卷第四ヲ行ヒテ

蛇を神として禮拜スる者ハ蟲を神として禮拜

スる者ありヲ得ベシ更ニ之ヲ以テ大前提トセ

バ即「ダリイ」ノ推測式ト為ル可シ此例ノ推斷ハ

吾人平生慣行スル所ニシテ其種類枚擧スルニ

違アラズ

又渾体ト稱スル一種体ハ許多ノ連續セル推測

式第一ノ形式ヲ合併シタル者ナリ左ノ例ヲ見テ自ラ

詳ナル可シ

一切の甲ハ乙あり



一切の乙ハ丙あり

一切の丙ハ丁あり

一切の丁ハ戊あり

(故三)一切の甲ハ戊あり

斯ノ如ク連續シタル述意ノ數ニハ限無キ者ニ

シテ其一條ノ述意ノ主辞ハ其前ナル述意ノ属

辞ト為リ其属辞ハ又次ナル述意ノ主辞ト為ル

ナリ而シテ断言ノ主辞ハ第一述意ノ主辞ニシ

其属辞ハ最後ノ述意ノ属辞ナリ則此例ハ左ノ

如キ三個ノ述意ヲ合併シタル者トス

第一推測式

一切の乙ハ丙あり

一切の丙ハ丁あり

一切の甲ハ乙あり

(故三)一切の甲ハ丙あり

(故三)一切の甲ハ丁あり

此ニ因リテ看レバ渾体推測式ニテ中名辞ノ數

ハ第一ノ述意ト末ノ断言トノ間ニ在ル述意ノ

數ニ同シクシテ同數ノ推測式ヲ合併シタル者

ナリ第一推測式ハ第一ノ述意ヲ小前提トシ第

二ノ述意ヲ大前提トシタル者ナリ第二第三ノ

式ハ其先ナル推測式ノ断言ヲ以テ小前提トス

第二推測式

一切の丁ハ戊あり

一切の甲ハ丁あり

一切の乙ハ丙あり

(故三)一切の甲ハ戊あり

此ニ因リテ看レバ渾体推測式ニテ中名辞ノ數

ハ第一ノ述意ト末ノ断言トノ間ニ在ル述意ノ

數ニ同シクシテ同數ノ推測式ヲ合併シタル者

ナリ第一推測式ハ第一ノ述意ヲ小前提トシ第

二ノ述意ヲ大前提トシタル者ナリ第二第三ノ

式ハ其先ナル推測式ノ断言ヲ以テ小前提トス

第三推測式

一切の甲ハ丙あり

一切の乙ハ丙あり

一切の丙ハ丁あり

(故三)一切の甲ハ戊あり

此ニ因リテ看レバ渾体推測式ニテ中名辞ノ數

ハ第一ノ述意ト末ノ断言トノ間ニ在ル述意ノ

數ニ同シクシテ同數ノ推測式ヲ合併シタル者

ナリ第一推測式ハ第一ノ述意ヲ小前提トシ第

二ノ述意ヲ大前提トシタル者ナリ第二第三ノ

式ハ其先ナル推測式ノ断言ヲ以テ小前提トス



渾体ニハ第一述意ノ外ハ必皆宜シク普稱述意ナル可シ然ラザレバ推測式第三則ヲ犯ス又最後述意ノ外ハ皆必肯定ナルヲ要ス然ラザレバ第四則ヲ犯ス學者須ラク例ニ就テ徴ス可シ

第十二編

設若推測式

余第四編ニ於テ述意ヲ直説体ト設若体トニ大

別シテ此マデハ先ツ直説体ノ推測ヲ論ジタリ

今又設若体ノ推測ヲ畧論セン

設若述意ニ二種有リ第一類ヲ假想述意ト稱ス

學生若し勉強をれむ其學力進む可シト云ヘル

ガ若シ「若シ云々」ノ一句ヲ前項ト稱シ下句ヲ後

項ト稱ス第二類ヲ離接述意ト稱ス某ハ勉強カ

或ハ不勉強カありト云フ等ノ如シ

假想推測式ハ大小二前提ニテ成レルト通常推

測式ニ異ナラズ大前提ハ假想述意ナリ小前提

ハ直接述意ニシテ其肯定ナルカ或ハ否定ナル

カニ因テ假想推測ノ二種ヲ得ルナリ其肯定ナ

ル者ヲ造成假想式ト稱ス則

イ若シ口おれむハオニあり

イオ口あり



(故三ハオニあり)

ノ如ク小前提ニ於テ大前提ノ前項ヲ肯定スル  
ナリ小前提ノ否定ナル者ヲ破滅假想推測式ト  
稱ス則左ノ如シ限ハニ對スルハ其前項ト

イ若シ口おれをハオニあり

ハオニあらむ大前提ハ則ち此意ナリ

(故三イを口あらむ)

此小前提ハ大前提ノ後項ヲ否定スルナリ

此類ノ推測式ノ當否ヲ審査スルハ單ラ左ノ定

則ニ依ル

第一 前項(大前提)ノ當ナレバ後項モ亦當ナリ

第二 後項否ナレバ前項モ亦否ナリ

此定則ヲ犯シテ後項ノ當ナルヨリ前項當ナリ

ト推断シ或ハ前項ノ否ナルヨリ後項ノ否ヲ推

断スル若キハ忽誤謬ニ陥ル可シ今若シ

イ若シ口おれをハオニあり

ハオニあり

(故三イを口あり)

ト云フハ是レ誤ナリ其故ハハノニナルコトハ只

イノ口ナル時ノニ限ラズ又他ノ事情ニ因ル



トモ有ル可シ例へバ別々又別々事計ニ因ハ  
雨降れを道路惡ト其姑公ハ前二ヤ其ハ又  
道路惡ト口を以テ其意を成成無難別式ト

(故三雨降りとり

ト云フガ如シ道路惡シト雖必雨降りタリトフ  
可カラズ或ハ他ノ事由ニテ然ルヤ是レ未知ル  
可カラズ或ハ前取入るヤムロト別取入るヤム  
又 學生若シ不勉強おれば其學問ハ進歩せざる  
者あり

此學生の學問を進歩せざる者あり

(故三此學生ハ不勉強あり

ト云フ若キハ其不當ナルト尤明ナリ何ナレバ  
學生或ハ勉強ナルモ其性魯鈍ナルカ又ハ他ノ  
事情有リテ進歩セザルヤモ知リ難ケレバナナリ  
前項ヲ否定スレバ左ノ如シ

イ若シ口おれをハトニあり

イを口おらむ

(故三八を二からむ

此則誤謬ナリ蓋シイハ固ヨリ口ナラズト雖ハ



ノ二ナルヲハ無シトス可カラズ故ニ前ノ例ハ  
雨降ラズトモ道路ノ惡シキヲ無シトスルヲ能  
ハズ又學生ハ不勉強ニ非ズト雖其學問進歩セ  
ザル者ニ非ズ即進歩ス可シト断定スルハ不當  
ナルヲ極メテ明白ナル可シ  
今又更ニ一例ヲ舉ケテ之ヲ詳ニセシ  
性質若し吝嗇かれむ其人ハ金錢を施さざる  
者ありキハ其不當ナルヲ明セシメテ  
此人ハ金錢を施さざる者あり  
故ニ此人ハ吝嗇あり

或ハ

性質若し吝嗇かれバ其人ハ金錢を施さざる  
者あり  
此人ハ吝嗇あらむ  
故ニ此人ハ金錢を施さざる人ニ非む  
是兩ナガラ皆誤謬ナリ蓋シ此人ハ吝嗇ナラザ  
ルモ或ハ己ガ貧困ナルカ或ハ施與ハ善事ニア  
ラズト考フルカ又ハ其他ノ理由有リテ施與セ  
ザルモ知ル可カラザレバナリ  
假想推測式ハ容易ニ尋常ノ推測式ト為ス可シ



即前ノ「學生」兩降ノ二例ノ式ハ左ノ式ニ變ズル  
 一ヲ得ルナリ  
 不勉強ある學生ハ學問進歩せむ  
 此學生ハ不勉強ある學生あり  
 (故ニ此學生ハ學問進歩せざる者あり)  
 又  
 兩降りたる後ハ道路惡キ時かり  
 今ハ雨降りたる後あり  
 (故ニ今ハ道路惡キ時かり)  
 ノ如シ

此ニ由リテ觀レバ後項ヲ肯定スルノ誤謬ハ第  
 三則ヲ犯シテ中名辞ヲ周逮セザルナリ則  
 兩降りたるの後ハ道路惡キ時かり  
 今を道路惡キ時かり  
 (故ニ今を兩降りたるの後あり)  
 ト云フ若キ「道路惡キ時」ノ句ハ中名辞ニシテ  
 周逮セラレズ是レ第三則ニ背ケリ又  
 不勉強ある學生ハ學問進歩せざる者あり  
 此學生ハ學問進歩せざる者あり  
 (故ニ此學生ハ不勉強あり)



ト云フモ亦同シ若シ此式ヲ

不勉強ある學生ハ學問進歩せむ

此學生ハ學問進歩せむ

(故ニ)此學生ハ不勉強あり

トスレバ又是第五則ヲ犯ス者トス

又前項ヲ否定スルノ誤謬ハ第四則ヲ犯ス者ナ

リ今ハ道路惡キ時ハ非ズ

雨降りとするの後ハ道路惡キ時あり

今ハ雨降りとするの後ハ非ズ

(故ニ)今ハ道路惡キ時ハ非ズ

ト云フ時ハ是レ小名辭ナル「道路惡キ時」ノ

句ハ否定断言ニ於テ周逮セラレ大前提ニ於テ

ハ周逮セラレズ

次ニ離接推測式ヲ説明ス可シ

離接推測式ハ大小二前提ニ成リテ大前提ハ離

接述意ナリ小前提ハ直説述意ニシテ其肯定ナ

ルヲ第一種ノ離接推測式トシ其否定ナル者ヲ

第二種トス

第一種ハ左ノ如シ

イモ口あり或はハモ二あり



(然ルニ) イエ口あり  
(故ニ) ハて二からむ

例へバ

義經が實に罪を犯しとるか梶原が讒言を為しとるか  
しとるかあり

(然ルニ) 梶原が讒言を為しとるかあり

(故ニ) 義經ハ罪を犯しとるは非む

ト云フガ如シ而シテ通常イトハトハ同一ナリ

或ハ口ト二ト同一ナリ其イトハト同一ナルノ

例ハ

華族ハ古の公家か或ハ大名あり

(然ルニ) 此華族ハ公家あり

(故ニ) 此華族ハ大名からむ

此ノ如シ其口ト二ト同一ナル例ハ

汝が非理あるか吾れが非理あるかあり

(然ルニ) 汝が非理あり

(故ニ) 吾を非理からむ

凡ソ大前提ノ二句ハ互ニ相容レテ兩立スル能

ハザル者タルト必要ニシテ尤注意ス可キナ

リ則イノ口ナル片ハハ決シテニタル能ハズ



ハノ二ナル片ハイノ口ナル能ハザル如キ場合  
 ニ非ザレバ此推断ヲ行フ可カラス例ニ「書物  
 ハ其記事の有益なるが或ハ其文章の美なるが  
 為メ貴重せらるト云ヘル大前提ナレバ是レ其  
 書物ノ記事ノ有益ナルヲ以テシテ必シモ其文  
 ノ美ナルガ為ニ貴重セララル、大ラズト為ス能  
 ハズ何ナレバ記事ノ有益ト文章ノ美トハ両立  
 スル能ハサル者ニ非ズ故ニ一ノ書物ニシテ此  
 両件ノ為ニ貴重セララル、ヤモ知ル可カラザレ  
 バナリ

離接推測式第二種ハ左ノ如シ

イを口あり或はハをニあり

(然ルニ)イを口あらむ

(故ニ)ハをニあり

例へバ

天一坊が真の吉宗の子が大岡越前守の監定

が正トキカあり

(然ルニ)天一坊ハ真の吉宗の子ニ非ズ

(故ニ)越前守の監定ハ正ト

此種ニハ大前提二句ノ両立セザル者タルヲ



要セズ例へバ  
 書物の貴重かるを記事の有益かるか文章の  
 美かるかが為かり  
 (然ルニ)此書物の貴重かるハ文章の美かるが  
 為ニ非ズ  
 (故ニ)此書物の貴重かるハ記事の有益かるが  
 為かり  
 ト云フハ是レ正當ノ推断ナリ  
 離接推測式ハ通常ノ推測ト大ニ異ナリテ小前  
 提ノ肯定ナルトキハ断言ハ否定ナリ小前提ノ

否定ナルトキハ断言ハ肯定ナリ  
 設若推測式ノ一類ニシテ二重体ト稱スル者有  
 リ之ヲ別チテ三種トス第一ヲ單純造成二重体  
 ト稱ス左ノ如シ  
 イ若シ口おれをハオニかり又ホ若しへかれ  
 をハオニかり  
 (然ルニ)イ口かるか或をホへかるかあり  
 (故ニ)ハオニかり  
 大前提ハ二個以上ノ假想述意ニシテ其述意ノ  
 後項ハ孰レモ皆同一ナリ小前提ハ離接述意ニ



シテ其項ハ皆大前提ノ述意ノ前項ナリ其例左  
ノ如シ

學科ヲ若ト有用ノ事物を知らしむる者たる  
かれを之を修む可し又若ト學科を講むるを  
心力を鍊る者たるかれを之を修む可し然ル  
ニ某ノ一學科ハ有用ノ事物を知らしむるが  
或ハ心力を鍊る者たるかり故ニ之を修むべ  
し

第二種ヲ複雑造成ニ重体ト稱ス左ノ如シ  
イ若シ口かれバハニかり又ホ若シへかれ

むトをチナリ

(然ルニイを口あるか或はホをへあるかあり

故ニハをニあるか或はトをチあるかり

断言ノ離接体ナルヲ以テ故ニ複雑ノ名有ルナ

リ其一例ヲ舉クレバ

大重盛若シ清盛の言ニ從ハバ不忠の臣と為リ

若シ背けを不孝の子とある(然ルニ其言ニ從

若ふか之ニ背くかの外あるなし(故ニ重盛ハ不

忠の臣とあるか或ハ不孝の子と成るの外を

なし



此例ノ如クイ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、チ、ノ諸項ハ皆異ナ  
 ラザルヨ多シハ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、チ、ノ諸項ハ皆異ナ  
 第三種ハ破滅ニ重体ト稱ス此種ニハ唯複雑体  
 有ルノ蓋シ其單純ナル者ハ(二個ノ)假想推測  
 式ニ分裂スレバナリ左ノ如シ不慮ノ因リ  
 不若シ口おれをハニ二あり又ホ若しへおれ  
 油をトちチありハホ若しへおれ  
 (然ルニ)ハニ二からざるか或をトちチからざ  
 (るか)ありハ口おれをハニ二からざるか  
 (故ニ)イを口からざるか或をホへからざる

かあり

然レ氏ニ重体ハ極メテ誤錯ニ陥リ易キ者ニシ  
 テ多ク用井ル可キ論法ニ非ズ蓋シ唯是か或ハ  
 是かトノ兩断ニテ盡シ得可キ者ハ甚少ケレバ  
 ナリ試ニ左ノ二重体ヲ見ル可シ  
 學生若し學問を好まを獎勵を無要あり又若  
 し之を嫌を獎勵を無効ニ属を  
 (然ルニ)學生ハ學を好めるか或を之を嫌ふか  
 あり  
 (故ニ)獎勵ハ無要あるか或ハ無効あるかあり



此推測式ノ小前提ハ正當ナラズ何ナレバ學生  
 中ニハ或ハ學問ヲ好メルニモ非ズ亦嫌フニモ  
 非ザル中間ノ者有ルナラン此ノ如キ者ニハ獎  
 勵ハ大ニ功效有ル可キヲ以テナリ  
 凡ソ二重体ノ言論ハ毎ニ緊シク之ニ反對セル  
 二重体ヲ用井テ答言ス可シ昔或ル亞仙人ノ政  
 治ニ從事セントシケル時其母之ヲ止メテ曰ク  
 汝政治ニ從事スルヲ勿レ汝若シ正直ナラバ人  
 汝ヲ惡マン汝若シ不正直ナラバ天汝ヲ惡マン  
 ト其子答テ曰ク見ハ政治ニ從事ス可シ見若シ

正直ナラバ天見ヲ愛セン見若シ不正直ナラバ  
 人見ヲ愛セント又人アリ師ニ就キテ狀師ノ道  
 ヲ學ビニケルガ師ト契約シテ曰ク業成ルノ後  
 最初第一着手ノ訴訟ニ勝タバ若干ノ謝金ヲ呈  
 ス可シ若シ之ニ負ケナバ呈セザル可シトサテ  
 成業ノ後ニ至リテ師屢謝金ヲ促スモ敢テ賜ラ  
 ザリシカバ遂ニ之ヲ法庭ニ訴タリ師曰ク汝ハ  
 極メテ愚ナル者ナラズヤ我此公事ニ勝タバ汝  
 ハ法庭ノ命ニ從テ我ニ謝金ヲ與ヘザルヲ得ズ  
 若シ汝勝タバ曩ノ契約ニ據リテ我ニ謝金ヲ與



ヘザル可カラズ故ニ汝ハ勝ツモ負クルモ我ニ  
 金ヲ與ヘザル可カラズト時ニ其人ノ答ヘケル  
 ハ師ノ才智ノ勝レタルニモ似給ハズ小子若シ  
 此公事ニ負ケナバ曩ノ契約ニ據リテ金ヲ出ス  
 ニ及バズ小子若シ勝タバ法庭ノ宣告ニ從テ金  
 ヲ出スニ及バズ故ニ負クルモ勝ツモ小子ハ金  
 ヲ出スニ及バサルナリト  
 是ノ如キ詭論ハ到底真理ヲ發見スルニ無要ナリ徒  
 ニ奇ヲ競ヒ辯ヲ好ム者ノ口舌ヲ弄フニ過ギサルノミ  
 論理略說卷之中終

東京大學助教授井上哲次郎抄譯

倍因氏 心理新說

同全部四卷

心理新說釋義

全一卷

心理學ハ心意ノ妙用ヲ論シ人智ヲ啓發スルノ學ナレバ學士  
 論者ノ別ナク講究スヘキハ言ヲ俟ズ因テ井上先生泰西ノ鴻儒  
 倍因氏ノ書ニ就キ其大綱ヲ淺近ニ抄譯セラル是實ニ心理  
 學ノ寶典ナリ然レ氏此學ハ意義深奥ナルヲ以テ 讀直  
 チニ其理ヲ悟ルベキ者ニ非ス因テ又別ニ釋義一卷ヲ附  
 セラル者此ニ據リテ沈思講究セバ孔釋モ未タ說カザル  
 所ノ心理ヲ發悟スルト豈難シトセンヤ



呈  
專門學校

高田早苗

明治十五年十二月十六日  
同十六年六月  
板權免許  
刻成出版

編述者

菊池大麓

日本橋區蛸壳町三丁目十番地

出版者

青木輔清

同區濱町三丁目十一番地

製本發兌

同盟

同區濱町三丁目十一番地





